

## 2020 年度事業報告

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

### 1. 定時会員総会に関する事項

2020 年 6 月 18 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・ 2019 年度 事業報告の件

を報告し、

- ・ 第 1 号議案 2019 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
- ・ 第 2 号議案 定款変更承認の件（※）

を諮り、原案どおり承認された。

（※）電磁的方法による議決権行使を可能とする変更

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、会員の総会会場への来場を抑制するとともに、議案書を当会 HP の会員専用ページへ掲載し、電磁的方法での委任状による議決権の代理行使の活用を推奨することで、コロナ禍においても、会員が議決権を行使できるような運営を実施した。（議決権行使者は 3,986 名、うち 2,952 名が委任状の提出によるもの。）

### 2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については退会 3 法人、個人会員については入会 327 名、退会 201 名があり、2021 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	1,931 名
準 会 員	1,297
研 究 会 員	2,144
小 計	5,372
法 人 会 員	107 法人
合 計	5,479 名・法人

### 3. 事業報告

#### [A. 試験関係]

##### (A1) 資格試験の実施

2020 年 12 月 14 日、15 日及び 16 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、2021 年 2 月 16 日に結果発表を行った。

第一次試験の総受験科目数は 3,591 科目、うち合格科目数は 833 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 84 名であった。※2021 年 4 月 30 日 試験問題に関する訂正に伴う数学の追加合格者を含む。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	1,044	633	682	487	745
合格者数 (人)	200	230	91	64	248

合格率	19.2%	36.3%	13.3%	13.1%	33.3%
-----	-------	-------	-------	-------	-------

第二次試験の総受験科目数は1,095科目、うち合格科目数は194科目であり、その結果、(基礎科目も含めた)新たな全科目合格者数は100名であった。

第2次試験 (専門科目)	生保1	生保2	損保1	損保2	年金1	年金2
受験者数(人)	356	318	147	119	70	85
合格者数(人)	62	63	22	22	10	15
合格率	17.4%	19.8%	15.0%	18.5%	14.3%	17.6%

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、試験会場における受験生の検温や机・椅子の消毒、試験室での座席間隔の確保等の感染予防対策を実施するとともに、受験生への感染予防対策等に関するお願いを実施した。

#### (A2) CERA 試験の実施

日本のCERA試験は、英国アクチュアリー会(Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoAという)のSP9(Enterprise Risk Management, Specialist Principles)をベースとしているが、IFoAでは2020年9月期のSP9試験がオンライン試験で実施されることを踏まえ、当会のCERA試験についても、2020年10月6日にIFoAのオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。2021年1月18日に結果発表が行われ、受験者数は46名、うち合格者は9名(合格率19.6%)であった。

#### (A3) 教科書の改訂等

- ① 2021年3月、「医療保険」「生命保険会計」について、直近状況へのアップデートを中心に、内容・構成を見直し、テキスト「保険1, 2(生命保険)」のうち「医療保険(保険1(生命保険)第7章)」「生命保険会計(保険2(生命保険)第1章)」を改訂した。
- ② 2021年3月、生命保険分野においてリスク管理に掛かる内容を充実させるため、保険2(生命保険)テキスト「リスク管理」を発刊した。

#### [B. 教育・研修・研究発表関係]

##### (B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎講座・特論講座を、2020年6月2日から2020年11月2日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目		受講者数	
基礎講座 (12科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確率論</li> <li>・ 数学(確率論演習)</li> <li>・ 生保数理</li> <li>・ 会計学</li> <li>・ 生命表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計論</li> <li>・ 数学(統計論演習)</li> <li>・ 損保数理</li> <li>・ 経済学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデリング</li> <li>・ 年金数理</li> <li>・ 投資理論</li> </ul>	139名
特論講座 (6科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保険論</li> <li>・ 保険監督法</li> <li>・ ファイナンス数理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口論</li> <li>・ 年金実務法規</li> <li>・ リスクマネジメント論</li> </ul>		31名

アクチュアリー追加演習講座を、2020年9月29日から2020年12月4日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	
追加演習講座 (4科目)	・生保数理演習 (29名) ・年金数理演習 (32名)	・損保数理演習 (43名) ・モデリング演習 (23名)

ERM関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座(ERM)を2020年7月6日から2020年9月19日の期間で実施した。受講状況は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3科目)	・ファイナンス数理(※) ・リスクマネジメント論(※) ・ERM ※特論講座と共通科目	33名

アクチュアリーの業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PCを用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座(データサイエンス)を2020年12月26日から2021年3月20日の期間で実施した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数														
専門講座 (データサイエンス) (前編・後編)	<table border="0"> <tr> <td>【前編】</td> <td>【後編】</td> </tr> <tr> <td>・Rの導入と簡単な回帰モデル</td> <td>・予測モデリングの基本手順</td> </tr> <tr> <td>・線形回帰モデル</td> <td>・探索的データ解析(EDA)</td> </tr> <tr> <td>・線形判別分析</td> <td>・予測モデリング用のモデル例</td> </tr> <tr> <td>・決定木</td> <td>・モデルの選択・評価の方法</td> </tr> <tr> <td>・一般化線形モデル1</td> <td>・回帰問題での実践(GW)</td> </tr> <tr> <td>・一般化線形モデル2</td> <td>・分類問題での実践(GW)</td> </tr> </table>	【前編】	【後編】	・Rの導入と簡単な回帰モデル	・予測モデリングの基本手順	・線形回帰モデル	・探索的データ解析(EDA)	・線形判別分析	・予測モデリング用のモデル例	・決定木	・モデルの選択・評価の方法	・一般化線形モデル1	・回帰問題での実践(GW)	・一般化線形モデル2	・分類問題での実践(GW)	20名
【前編】	【後編】															
・Rの導入と簡単な回帰モデル	・予測モデリングの基本手順															
・線形回帰モデル	・探索的データ解析(EDA)															
・線形判別分析	・予測モデリング用のモデル例															
・決定木	・モデルの選択・評価の方法															
・一般化線形モデル1	・回帰問題での実践(GW)															
・一般化線形モデル2	・分類問題での実践(GW)															

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべての講座について、オンライン形式での開催とした。

#### (B2) 日本アクチュアリー会年次大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、例年2日間での対面開催としていたところ、1日間(2020年11月6日(金))に集約し、ライブ配信を中心としたオンライン形式での開催とした。

- <午前の部> ・共通セッション(理事長挨拶、祝辞、共通プレゼンテーション(IAA教育シラバス改定を踏まえた当会の検討状況))  
・論文発表 / プレゼンテーション / パネルディスカッション / Open Discussion Forum
- <午後の部> ・論文発表 / プレゼンテーション / パネルディスカッション / Open Discussion Forum

論文発表: 11編、プレゼンテーション: 8セッション、パネルディスカッション: 4セッションが行われた。なお、配信された動画は、大会終了後、eラーニングシステムに掲載され、再視聴も可能とした。

(B3) IT 研究大会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2021年2月19日、オンライン形式で開催した。IT 研究大会専用ホームページへの文書等の掲載（最新 IT 技術調査・研究、技術グループによる新技術紹介）や動画配信（IT 研究会第 1 グループから第 5 グループによる活動報告）とし、動画は配信後も e-ラーニングや YouTube（限定公開）にて一定期間の視聴を可能とした。

(B4) 例会の開催

2020 年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (2020. 4. 23) [会計基準]	IFRS17 号におけるイーールドカーブ・モデリング：理論と実践の課題	ウィル・ハーリー 氏 (ムーディーズ・アナリティック クス ERS インシュアランス(ア ジア太平洋地域))
第 2 回 (2020. 8. 26) [会計基準]	IFRS 第 17 号最新情報—国際会計基 準審議会 (IASB) による 2020 年 6 月の公表を受けて	クリス・マーフィー 氏 (RGA 再保険会社 (アメリカ・ セントルイス)) トリストラン・チャン 氏 (RGA 再保険会社 (カナダ・ト ロント))
	(第 2 回再放送) 9 月 26 日、10 月 26 日、11 月 26 日	
第 3 回※ (2020. 9. 16) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナリズム研修 (継続教育) と共同開催 (B9)①参照)	
	(第 3 回再放送) 10 月 16 日、11 月 16 日、12 月 16 日	
第 4 回 (2020. 12. 22) [データサイエンス]	予測モデリングにおける誤差評価 に関する研究	データサイエンス関連基礎調 査 WG 山田 龍太郎 氏 (ウイリス・タ ワーズワトソン) 平松 雄司 氏 (アクサ生命) 渡辺 努 氏 (第一生命)
	(第 4 回再放送) 12 月 29 日	
第 5 回 (2021. 1. 12) [年金・退給制度]	全世代型社会保障検討会議におけ る改革の検討のこれまでの成果と 今後の方向性 ※日本年金数理人会との共催企画	厚生労働省政策統括官 (総合政 策担当) 付 政策統括室政策企 画官 和田 幸典 氏
	(第 5 回再放送) 1 月 26 日	
第 6 回 (2021. 1. 28) [データサイエンス]	未来の健康を予測するデータサイ エンスの力	聖路加国際大学 大学院公衆 衛生学研究科 講師 (生物統計 学・生物情報科学分野)、臨床 疫学 HTA センター コンサルタント 林 邦好 氏
	(第 6 回再放送) 2 月 11 日	
第 7 回 (2021. 3. 4) [その他]	(Part 1) ニューノーマルにおける リモートワーク (Part 2) 保険業界の次の波 (Next Wave) とシナリオと打ち手 - 新型コ	EY ストラテジー・アンド・コン サルティング株式会社 野村 有司 氏 青木 計憲 氏

	ロナウイルスの影響もふまえて- (第7回再放送) 3月18日	
第8回 (2021.3.31) [その他]	確率的死亡率モデルとその応用: ベイズのすゝめ	東京経済大学教授、慶應義塾大学名誉教授、日本保険・年金リスク学会会長、株式会社 ProbSpace 技術顧問 小暮 厚之 氏

<新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、すべてオンライン形式での開催とした。また、第2回例会より、当日参加が難しい会員向けに例会当日の録画内容の再放送を実施した。

(B5) 関西委員会例会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式で分科会発表会を行うこととし、3月12日~21日の期間に録画内容を公開した。

(2021.3.12 - 3.21) [生保・年金・リスク管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会
-------------------------------------	-------------	-----------------------------

(B6) ムーンライトセミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2020年11月から2021年2月にかけて次の4つのテーマで開催した。

「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する実務者会議」をやってみよう	土井 和行 君 嶋田 以和貴 君 (共にウイリス・タワーズワトソン)
新型コロナウイルスとアクチュアリー	小合 徳幸 君 (ミリマン)
「市場整合的ソルベンシー評価: 金融リスクとアクチュアリアル・モデリング」の輪読	清水 泰隆 氏 (早稲田大学理工学術院)
AGLM の研究	岩沢 宏和 君 および ASTIN 関連研究会委員

(B7) 関西セミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式とし、2021年2月12日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19 流行に対する防疫戦略の効果についての考察</li> <li>・ ソルベンシーマージン比率に関する一考察~損害保険会社の保険リスクについての統計的考察~</li> <li>・ TVF モデルを発展させた死亡率曲線の数理モデルと生命表の将来推計への応用</li> <li>・ Volterra Heston model の下での HARA 型期待効用最大化問題</li> <li>・ トンチン年金の類型が持つ死亡に関するリスクの考察</li> </ul>	京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ生
---	-----------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ IFRS17 Pocket Guide on Reinsurance Contracts Held
- ・ IFRS17 Reinsurance contracts held : an example of proportionate reinsurance coverage
- ・ 商品開発における最低保証利率の情勢
- ・ 株式市場の効率性と市場アノマリー
- ・ 保険会社のM&A
- ・ 現代ポートフォリオ理論
- ・ プロフェッショナルリズム研修（継続教育）2019
- ・ 2017年度第2回例会「グローバルおよび日本における特定疾病発生率のトレンド」
- ・ 2017年度第3回例会「将来を見据えたアクチュアリー教育像」「IAAにおけるモデル実務基準 ISAPs の議論の状況」
- ・ 2017年度第5回例会「長寿リスクへの対応」
- ・ 2017年度第8回例会「プレディクティブ・モデリングの概要と最新動向」「統計科学と機械学習の違いについて」
- ・ 2020年度第1回例会「IFRS17号におけるイールドカーブ・モデリング：理論と実践の課題」
- ・ Society5.0の世界により変化していく保険会社の役割
- ・ 2018年度第1回例会「資本規制の歴史と最近の論点」「経済価値ベースの資本規制ー北米における動向」
- ・ 2018年度第4回例会「プレジジョン・メディシン（精密医療）」
- ・ 2018年度第6回例会「経済価値ベースのアセットアロケーション・ALMの方向性」
- ・ 2018年度第10回例会「保険数理と統計的方法とその心」
- ・ 2018年度第11回例会「ロボット・AIと法」「データサイエンスに関する若手研究発表」
- ・ 2019年度年次大会「これからのモデルガバナンスの話しよう」
- ・ 2019年度年次大会「保険における予測モデリングの応用（実践編）」
- ・ 2019年度年次大会「ICS Ver. 2.0について」
- ・ 2019年度年次大会「IFRS第17号「保険契約」について」
- ・ 2019年度年次大会「2019（令和元）年公的年金財政検証の結果と前回検証からの変化について」
- ・ 2019年度Open Discussion Forum 資料①Insurance Industry Change Session
- ・ 2019年度Open Discussion Forum 資料②Retirement Session
- ・ 2019年度Open Discussion Forum 資料③Financial Reporting Session

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、2020年9月16日に次の内容で実施した。  
（再放送：10月16日、11月16日、12月16日）

- ・ 会社内アクチュアリーのジレンマ 水村 典弘 氏（埼玉大学大学院教授）

② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、2021年3月1日に実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ 日本アクチュアリー会行動規範 若杉 英樹 君（明治安田生命）
- ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）

- ・ 損保のプロフェッショナリズム 金子 洋巳 君（損保ジャパン）
- ・ 年金のプロフェッショナリズム 堀田 晃裕 君（有限責任監査法人トーマツ）
- ・ ケーススタディー 黒岩 和夫 君（メットライフ生命）

※参加者を資格試験全科合格者（2020年度資格試験をもって全科目に合格した者を含む）に限定した。

- ③ 2021年3月29日、実務上の疑問や課題等を共有する場として本会主催での少額短期保険業者の保険計理人による意見交換会を行った。

#### <新型コロナウイルス感染症に関する対応>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式での開催とした。

#### (B10) CERAに関する研修等の実施

2021年1月30日、CERA試験の合格者を対象に、ERMに関する日本特有の状況やERMのケーススタディーについて講義やグループ学習を実施した。この研修はCERA資格の認定要件であり、受講修了者は4名であった。

#### (B11) 研究集会の実施

ICA2026開催に向けた学術人材の裾野拡大を視野に入れ、会員に学術・研究活動に接する機会を提供すること、およびアクチュアリー関連研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、当会主催（JARIPとの共催）にて、2020年度研究集会を2021年2月13日に行った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式での開催とした。

### [C. 調査・研究活動]

#### (C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第26回標準死亡率諮問委員会が、2020年11月19日（木）に開催され、「生保標準生命表2018（死亡保険用）」、「第三分野標準生命表2018」及び「生保標準生命表2007（年金開始後用）」について、2021年度に継続適用することが了承された。

#### (C2) 実務基準の整備

- ① 「退職給付会計に関する数理実務ガイダンス」について、日本年金数理人会における「厚生年金基金実務基準」の取扱いを踏まえ、本ガイダンスにおいても厚生年金基金実務基準を参照しないこととする改定を、2020年4月に行った。
- ② 水産業協同組合法等の改正に対応するため、実務基準について所要の整備を行うにあたり、「全国共済水産業協同組合連合会の共済計理人の実務基準」改正案の公開と意見募集を2021年1月に行った。意見が提出されなかったため、原案を最終案とし、2021年3月10日理事会にて改正の決議を経て、2021年3月29日付で農林水産大臣より認定された。また、「全国共済水産業協同組合連合会の共済計理人の実務基準解説書」について同様の趣旨による改正を行った。

(C3) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA（国際アクチュアリー会）の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAAは、アクチュアリー専門職団体として、IASB（国際会計基準審議会）及びIAIS（保険監督者国際機構）において行われている精力的な検討に関して、それぞれの機関会員として委託研究等の活動を行っている。

(C4) 「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識者会議」のオブザーバーの派遣

金融庁からの依頼を受け、「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識者会議」にオブザーバーとして、宮本 淳 君（第一生命）を派遣した。

(C5) IAA 教育シラバス改訂への対応

- ① 2021年より改訂後 IAA 教育シラバスが発効となることを契機として、将来の本会の試験・教育制度について、試験・教育企画委員会及び傘下の PT 等において対応を検討している。早ければ、2021年度より「金融システム」「データとシステム」「アクチュアリアル・リスクマネジメント」の3分野において、2日間程度の研修を正会員の資格要件として行う想定として、研修の実施可能性を確認するべく2021年2月18日、24日、25日、3月5日にトライアルとしての位置づけでの研修をオンラインにて試行実施した。
- ② IAAより発信された「IAA2017 教育シラバスの充足状況等に関する質問票」に対し、2021年3月31日に回答した。

(C6) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAA のカウンスルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2020年4月、IAA パーチャルカウンスル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ② 2020年6月、2021年4Qの IAA 会議開催地の選定（韓国ソウル）、新設されるアドバンスコミットターの委員長・副委員長の選任について、賛成として投票を行った。
- ③ 2020年10月、会費遅延に対する対応方針の制定、モンテネグロアクチュアリー会の準会員の承認、セクション規制の改正について、賛成として投票を行った。
- ④ 2020年11月、IAA パーチャルカウンスル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。

[E. 国際関係]

(E1) IAA 活動

- ① IAAに委員を派遣し、委員会活動に積極的に参画しており、そのうち委員会に関しては、吉村 雅明 君は指名委員会に委員長として、河野 年洋 君がアクチュアリー実務基準委員会に、山田 龍太郎 君が損保委員会（フォーラム）に副委員長として、藤澤 陽介 君がエンタープライズ・アンド・ファイナンシャルリスクフォーラムに副委員長として、それぞ

れ参画している。

- ② 2020年12月、IAAより、IAAの戦略に関する議論を行うカウンシルの下部組織SPC (Strategic Planning Committee) メンバーの募集があり立候補を行ったところ、抽選の結果、IAJがSPCメンバーに選出され、吉村 雅明 君を派遣することとした。(任期4年)

(E2) 2020年度 東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の開催中止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、2020年度のASEA講座は開催を中止することとした。

(E3) 国際会議等への派遣等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、対面形式での会議の開催は中止となり、次のとおりオンライン形式で開催されている。

- ① 2020年4月15日～5月12日 IAAバーチャル会議  
村田 富生 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、山本 貴史 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、大内 稔 君
- ② 2020年5月11日～5月15日 Paris 2020 Virtual Actuarial Colloquium  
岩沢 宏和 君、渡辺 重男 君、海老崎 美由紀 君、鈴木 理史 君、藤田 卓 君、近藤 健司 君、田中 豊人 君
- ③ 2020年9月21日～11月18日 Virtual Council and Committee Meetings (4Q 2020)  
村田 富生 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、河野 年洋 君、中村 吉男 君、山本 貴史 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、勝野 健太郎 君、大内 稔 君

※IAA セクションのコロキアムは、2020年5月11日～5月15日の期間において、「SECTIONS VIRTUAL COLLOQUIUM 2020」がactuvieをプラットフォームとしバーチャル会議として開催された。

※2020年10月にインドネシア・バリにて開催予定であった第23回AAC(Asian Actuarial Conference)は、開催中止。

[F. 評議員会]

- (F1) 2021年3月4日に第32回評議員会をオンラインにて開催し、2020年度事業報告、2021年度事業計画(案)について審議した。

[G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君(住友生命)、齊藤 弘行 君(住友生命)、鈴木 剛 君(住友生命)、片寄 郁夫 君(りそな銀行)、徳田 裕也 君(大同生命)、豊留 健 君(日本生命)、恒川 啓之 君(日本生命)及び南 嘉博 君(日本生命)を派遣した。

- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君(住友生命)、武村 昌紀 君(大同生命)及び恒川 啓之 君(日本生命)を派遣した。

- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君(住友生命)を派遣した。

(G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務の講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（エーオンベンフィールドジャパン）、藤澤 陽介 君（住友生命）、塩島 薫 君（あいおいニッセイ同和）、星野 明雄 君（日新火災）、石尾 暢久 君（損害保険ジャパン）、堀田 周平 君（三井住友海上）を派遣した。

(G5) 2020 年 10 月、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、学術活動の一環として、大内 稔君（事務局長）を講師として派遣した。

(G6) 2020 年 6 月、関西大学システム理工学部数学科において、学部 3 回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスがオンライン形式で開催され、学術活動の一環として、佐々田 明彦 君（関西委員会）を講師として派遣した。

## 〔H. 表彰関係〕

(H1) 2019 年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

正岡 開 君（第一生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学 2 名、生保数理 2 名、損保数理 1 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 1 名、生保 1 1 名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2020 年度アクチュアリー会優秀論文について、学術委員会による審査の結果、同委員会からの推薦はしないこととなり、該当論文は無しとなった。

② 2021 年 2 月 19 日、IT 研究大会において、次の論文を「2020 年度 IT 関係優秀論文」とした。

1. 「保険業界における SoE・SoR の在り方について」

（IT 研究会第 4 グループ）

2. 「保険業界のサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ対策とその課題」

（IT 研究会第 5 グループ）

## 〔I. 広報・出版活動〕

(I1) 情報提供機能の充実

① 2020 年 8 月末に、本会ホームページの「合格者の声」について、2020 年度版としてリニューアル（紹介メンバーの入替え）を行った。

② 2021 年 1 月 23 日、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーを、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制する観点から、オンライン形式にて開催した。参加者は 56 名であった。

③ 本会会員ホームページについて、2021 年度より、「スマートコア」（クラウド型パッケージシステム）に移行するべく、4 月のリニューアルに先駆け、3 月 12 日より先行公開を

実施した。

(12) 関連協会の事業への協力活動

- ① 公益財団法人 数学オリンピック財団が主催する公益目的事業「IM02023 日本大会」等への協賛を実施した。
- ② 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園 2020」の本選に協賛する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(13) 会報等の刊行

① 会報

第 73 号	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生命保険アクチュアリー業務における強化学習の応用</li><li>・ 年金制度の財政方式と積立水準に関する一考察</li><li>・ ICS を健全性基準とした再保険戦略に関する考察</li><li>・ 非経済前提の細分化に関する考察</li><li>・ 生前給付商品の残存計算に用いる予定広義死亡率について</li></ul>
--------	--

② 会報別冊

第 288 号	<p>&lt;第 60 回 IT 研究大会報告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 最新 IT 技術調査・研究「COVID-19 によるデジタル・ドリブン IT 技術と保険会社のオペレーションの変化」(プレゼンテーションのみ)</li><li>・ 業界共通プラットフォームの実現に向けて</li><li>・ P2P 保険を中心とした新技術を用いた保険会社の新サービス・商品の研究</li><li>・ サステナビリティを踏まえた保険業界における DX 推進</li><li>・ 情報銀行の設立等の最新動向を踏まえた保険会社でのデータ活用</li><li>・ デジタル時代における情報システム部門の在り方、あるべき働き方</li></ul>
---------	--

③ アクチュアリージャーナル

第 111 号	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2019 年度 第 6 回例会報告</li><li>・ ASTIN Bulletin Abstracts (ASTIN 関連研究会翻訳)</li><li>・ 2019 年度 AFIR 関連研究会 論文研究活動報告</li><li>・ 2019 年度 関西委員会分科会活動報告</li><li>・ 2019 年度 ムーンライトセミナー報告</li><li>・ 2019 年度 新 CERA 資格者</li><li>・ 2019 年度 継続教育制度履修目標達成者</li><li>・ 2019 年度資格試験合格者発表</li><li>・ アクチュアリーリレートーク (連載第 12 回)</li></ul>
第 112 号	<ul style="list-style-type: none"><li>・ データサイエンス関連基礎調査 WG 報告<ul style="list-style-type: none"><li>- R を用いたデータの可視化技術解説書</li><li>- SOA Exam PA: Predictive Analytics の翻訳</li></ul></li><li>・ 2019 年度 継続教育「CPD 単位」の履修状況</li><li>・ 2020 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿</li><li>・ アクチュアリーリレートーク (連載第 13 回)</li></ul>
第 113 号	<ul style="list-style-type: none"><li>・ エッセイ アクチュアリーの起源? コリン・マクローリンの年金数理への貢献</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第 14 回）</li> </ul>
第 114 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年度 アクチュアリーセミナー報告（広報委員会アクチュアリーセミナー部会・関西委員会）</li> <li>・ICA2026 および論文意識に関する会員向けアンケート結果について（ICA2026 準備委員会・日本アクチュアリー会事務局）</li> <li>・市場整合的ソルベンシー評価－金融リスクとアクチュアリアル・モデリングー 書評</li> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第 15 回）</li> </ul>
特別号 ＜リスクと保 険第 17 号＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄稿 経済価値ベースのソルベンシー規制 ー規制か、レジームの転換かー</li> <li>・寄稿 経済価値ベースのソルベンシー規制導入へ今こそ注力すべき時</li> <li>・寄稿 有識者会議を振り返って：「3 つの柱」を機能させるために</li> <li>・講演 経済価値ベース規制の導入を踏まえた ERM のあるべき姿</li> <li>・論文 Cramér-Lundberg モデルにおける生命保険会社の公平性をふまえた契約者配当政策</li> </ul>

#### ④2020 年度資格試験問題集

##### (14) 広報誌の改訂

2020 年 6 月、アクチュアリーの活躍フィールドに関する記載を今日的に見直し、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新、海外研修の写真の入れ替え等の改訂を行った。